

千葉県消防団活性化検討会【概要】

消防団活動に関するアンケートの実施

- 令和5年8月1日～9月10日、県内消防団員(23,057人)を対象にアンケート調査を実施。(回答数7,731名・回答率33.5%)
- 現役消防団員の「入団理由」、「やりがい」、「入団して良かったこと」、「団活動への不満(負担)」、「操法」などの状況を把握。

消防団活性化検討会の設置

- 市町村等において、消防団活性化の取組が進むよう、アンケートから把握した課題とその解決の方向性について検討するため、学識経験者、消防団長、行政関係者からなる「消防団活性化検討会」を設置。

※第1回(R5.11.6)、第2回(R5.11.21)、第3回(R6.2.6)

「千葉県消防団活性化検討会」報告書

I 現状

1. 消防団の現状(団員の推移等)
2. 消防団活動について
年間出動回数、実施している訓練、報酬等
3. 消防操法大会について
大会の開催状況、大会に向けた訓練(頻度、時間)等
4. 消防団活動に関するアンケート調査結果
入団のきっかけ、やりがい、不満・負担、その他意見

II 主な課題

1. 消防団活動全般
 - (1)団員の減少 (2)活動(訓練、行事等)の負担
 - (3)実践的訓練の不足 (4)旧態依然とした体質
 - (5)処遇(報酬等)への不満 (6)団の運営に係る会計処理
 - (7)やりがいの喪失
2. 消防操法大会
 - (1)大会に向けた訓練の負担
 - (2)大会開催に対する不満

III 消防団活性化に向けた取組

1. 消防団活動について
 - (1)団員のモチベーション向上
 - (2)活動の負担軽減
 - (3)実践的な訓練の実施
 - (4)処遇の改善
 - (5)新たな団員の確保
 - (6)会計処理の改善
 - (7)体質の改善
2. 消防操法大会について
 - (1)消防操法大会の意義
 - (2)出場隊の選出方法
 - (3)大会に向けた団員の負担軽減
 - (4)消防操法大会の開催等(県、支部、市町村等大会)

市町村に展開

県大会見直し

消防団活動の課題

団員の減少

- 少子高齢化、サラリーマン化
- プライベート重視の傾向
- 消防団のマイナスイメージ
- 住民の理解不足

活動の負担

- 訓練などの頻度、拘束時間の長さ
- 地域行事(祭り、花火大会等)への参加
- 特定の団員への負担の偏り
- 活動しない団員の存在

実践的な訓練

- 消防操法大会に向けた訓練に偏重
- 団全体のスキルアップ不足
- 災害時に役立つ訓練ができていない
- 団員としての基礎知識の不足

体質

- 古い慣習や体質の存在
- 活動や望まぬ付合いへの強制参加
- 高圧的な上下関係、暴言や暴力

処遇

- 年額報酬が国の基準以下
- 報酬が実態として個人支給されていない
- 報酬が支給されない活動の存在

会計処理

- 報酬が団運営費に使われる
- 協力金(寄付金)の徴収をさせられる
- 活動資機材購入の個人負担

やりがい喪失

- 自発的な入団者が少ない
- 団活動のメリットがない
- やりがいが見いだせない
- 家族や職場の理解が得られない

7つの取組

団員のモチベーション向上

- 消防団の役割の理解促進
地域、家族、職場の理解促進
SNS等を活用したPRの強化
- マイナスイメージの払しょく
活動内容の見直し、活動目的の明確化
組織風土改革の実施
- 風通しの良い環境づくり
平時のボトムアップ体制確立
対話、意見聴取の場の設定
第三者による活動状況の把握

実践的な訓練の実施

- 地域特性を踏まえた訓練
災害特性を踏まえた訓練の検討
(火災が多い、水害が多い等)
大規模災害に備えた訓練の実施
訓練目的の明確化
自主防災組織等との連携
- 基本知識の習得
団の現状や地域の課題に係る研修実施

会計処理の改善

- 運営に係る費用
団運営費の精査
(会計報告や監査などの徹底)
協力金(寄付金)の実態把握
- 会計の適正運用
団会計の明朗化
(団員から徴収した会費の用途など)
協力金(寄付金)の是非の検討
活動で必要となる経費の予算化

活動の負担軽減

- 行事・訓練内容の見直し
式典等の簡略化
訓練の実施方法の改善(拘束時間等)
全体のスキルアップ
- 出勤、活動方法の見直し
班編成の広域化・再編
歳末警戒等の参加体制の見直し
- 活動の効率化
デジタル技術の導入

処遇の改善

- 報酬
国の報酬基準額への是正
報酬の対象となる活動の明確化
- 個人への支給の徹底
個人支給された報酬の集金等の改善

新たな団員の確保

- 機能別消防団員等の積極導入
大規模災害時や平日日中のみの団員
- 加入しやすい環境づくり
得意分野を活かせる団員構成

体質の改善

- 違法行為の撲滅
厳正な服務規律の確保
(特別職地方公務員としての自覚)
飲酒運転等の撲滅
- ハラスメントの防止
行事などへの参加を強制しない風土
ハラスメント研修の実施
事案発生時の相談窓口の設置

消防操法大会の課題

大会に向けた訓練の負担

- 操法の必要性は理解
- 一部団員（選手）のスキルアップにとどまっている
- 団全体のスキルアップが不足
- 大会に偏重した訓練の負担（長時間、回数）
- 訓練補助等の支援団員等の負担
- 団イメージ＝操法大会に向けた訓練が重荷
- 要員確保が困難（参加団員の偏り）

大会に開催に対する不満

- 消防操法は競う必要なし
- 大会は不要である（一方で大会継続意見も根強い）
- 高齢化で選手のなり手が不足
- 日ごろの訓練を重視すべき
- 市町村で実施したアンケート結果が反映されない

4つの取組

消防操法大会の意義

操法の必要性の再考と理解促進
選手だけでなくすべての団員が習得すべき基本技術
大会は日ごろの訓練成果披露の場
存続の場合、意義の明確化

出場隊の選出方法

大会参加は「強制するものではない」
出場の見送りも要検討
同調圧力による強制参加の排除
意欲のある団員が参加（任意参加）
出場隊編成の工夫（地域を超えた編成等）

大会に向けた訓練の負担軽減

訓練時間の工夫
効率的かつ安全な訓練
（頻度、必要人員の精査、人数制限等）
団員の実情（家庭や職場）に配慮した訓練計画
出場団員の固定化の防止（特定の団員に偏らない選出）

大会の開催等

- （県） 開催方法などの見直し
全国大会を踏まえた頻度等の検討
- （支部） 県大会の開催を踏まえた対応
輪番制などの選考方法の改善
- （市町村） 実施の可否、実施の場合の選考方法の検討